ゆたかな心をはぐくむ

人権のひろば 154

人権教育・啓発課　☎(232)2113

人権啓発標語　「『なくそう』より『なくす』　一人一人が行動に移せば　いじめや差別はなくなる」

菊陽西小学校　６年　小川　瑠花（るか）

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす
第37回菊陽町人権子ども集会

第37回菊陽町人権子ども集会を、昨年の12月４日㈯開催しました。 新型コロナウイルス感染症予防のため、ＩＴ機器を活用して各小中学校を画面でつなぎました。この集会は、「子どもたちに最善の利益」をとうたわれる、「子どもの権利条約」の子どもの意見表明の権利や集会の自由の権利などの具体的な行動です。

開催前に２回の実行委員会が行われましたが、同じ場に集まっての話し合いはできず、画面を通して意見交換・話し合いをしました。町内の小中学校の現状と課題を出し合い、この集会を開催する目的を以下のとおり決めました。

○身の周りのおかしさに気づき、何が正しいかを判断し、行動する
○自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考えて行動する
○お互いを知り合い、自分の気持ちが伝え合える関係をつくる

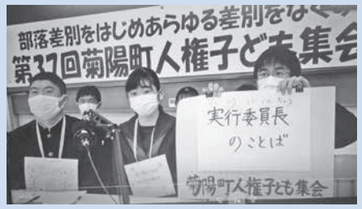
集会では、動画で①菊陽西小学校：「私の中のミナマタ」②武蔵ヶ丘小学校：「ひとり一人の違いを認め合い、みんなが幸せだと思える武小をつくろう」③武蔵ヶ丘北小学校：「思いやりがあって笑顔いっぱいの楽しい学校」④菊陽中学校：「大切にしたいこと」の発表が行われ、発表ごとに意見の交換をしました。

武蔵ヶ丘小の発表の様子

最後は
①いじめや差別を他人事ではなく自分のこととして考え自分の行動をふり返っていく
②自分の思いを伝え合い、つながり合うことでいじめや差別をなくす行動をしていく
③お互いのことを知り合い、いじめや差別を許さないなかまをつくっていく
と宣言しました。

当日、開催にあたり実行委員長の清水奈和（なな）さん（武蔵ヶ丘中）が集会に向けた自らの思いを語りました。

「今年もリモートではありますが、こうして菊陽町内の小中学生がみんなで学び合えることがうれしいです。私はこれまでたくさん人権学習を行ってきました。部落差別について、なかまはずしについて、就職差別について。たくさんたくさん学ぶ機会がありました。でもこれまでの私はいつも何となく人権学習に取り組んできました。だから、学習後に書く感想は、いつも他人事のような内容かキレイごとばかりが書かれていました。人権学習を中途半端なまま終わらせてきた私は、学習の学びを生活につなげることができませんでした。『この発言は、いじめや差別につながるのでは?』そう気づいても注意することができませんでした。声をあげることで周りにどのように思われるのか怖くてたまらなかったからです。だから私は気づいても見て見ぬふりをして終わらせるという楽な道を選びました。周りの目ばかり気にするようになった私は、自分をよく見せるために平気でうそをつくことだってありました。弱い自分を隠すことに毎日必死でした。必死になるほど自分で自分を追いつめて苦しめていきました。『いじめや差別という種は、見ている周りの人によって育てられ成長する』という話を聞いたことがあります。私はこのいじめや差別の種を育てた一人です。自分を守るために、私は周りの大切な友達を傷つけました。でも、人権学習に真剣に取り組んでいなかった私はそのことに気づけませんでした。傷ついているなかまの気持ちが分かりませんでした。分かろうともしていませんでした。自分の犯した過ちに気づいた今、私の中にあるのは後悔ばかりです。でも、いくら後悔しようともも過去には戻れません。私はこれからも日々変わり続ける環境の中でたくさんの人とのかかわりのなかで生きていかなければなりません。だから私はこの集会で自分を変えたいです。自分のことしか考えられなかった私を周りの目ばかり気にして現実から逃げてきた自分を変えたいです。正しいと思ったことを貫ける自分に、他人からの注意を素直に受け入れられる自分になりたいです。弱い自分にずるい自分に立ち向かうための勇気が欲しいです。だから私は今日この集会に真剣に参加します。この集会での学びをキレイごとに終わらせたくありません。いじめや差別はみんなで立ち上がり、立ち向かわなければならないと思います。今日はみんなで一緒に真剣に集会へ参加していじめや差別をなくすためにできることを考えて行動にうつしていきましょう。」



司会進行を務める実行委員（武蔵ヶ丘中）

学校だより 45

菊陽中学校

響力 ～つながる絆　響く想い～

12月３日に３年生、21日に１、２年生の合唱コンクールを開催しました。コロナ禍で一度中止になりましたが、学校が誇る素晴らしい合唱を継続していきたいという生徒と教職員の熱意で実現しました。

短い練習期間でしたが、各クラスとも「心を一つ」にして、楽曲に込められた作者の想いに自分たちの想いを重ねて伝えました。片山先生は「歌い終えたときの子どもたちの表情から、また一歩、学級の絆が深まったことを感じました」と生徒の様子を振り返りました。当日の様子を録画で観覧した保護者の皆さんからは、「感動しました」との声がありました。

金賞を受賞した３年３組が「ぜんぶ」を合唱する

きくよう文芸

菊陽句会報

冬日和電動椅子に老い散歩　紫藤　祥子
今日の色スマホに修（おさ）む庭紅葉　曽我　育代
娘の手並活けて華やぐ梅擬　曽我トモ子
重ね着に襷掛（たすきが）けして保存食　緒方チエ子
馳走とはいえぬ旨さのとろろ汁　米山ルミ子
大阿蘇の湧き出る水辺垂氷（たるひ）かな　木村　信子
対局のライバル咳を二つする　財津　早雪

朝の庭静寂に一筋冬日差す　原野レイ子
柿落葉風に吹かれて踊りおり　寺尾千代子
髪を切りこれより師走駆け抜けん　高橋　孝子
枯葉径（みち）足音しかと踏みしめて　田中　郁子
白銀の寒夜に想ふきみのこと　北川しんじ
見舞として千柿数多（あまた）と花の鉢　佐藤　澄世

短歌会

湯なるかと蛇口の流れに手をしばし浸して朝の飯椀洗ふ　有久　賢治
春採りのトマトは今年も三品種大玉中玉小玉を播きぬ　梅田　國雄
雲間より出ててかくれて又出でぬ冬の入り日は大きく眩し　佐藤せい子
金峰を後ろで守る父のごと茫洋（ぼうよう）として普賢岳立つ　田中　成美
年々のトウキビ畑は荒れはてて野草茶作りは今年は無しか　中村トシエ
朽ちてなお吹きつける風に葉を揺らし欅（けやき）は今日もここに立ちたり　馬場　礼子
絵本からトロードンが抜け出して両手を前にピアノの上を　松本　東亜